

北陸経済研究

8

August
2026 no.545
ISSN 0386-8583

定例調査

北陸のBSI
経営者の景気見通し

自主調査

経営の視点から考える「女性特有の健康課題」
—北陸企業の実態調査にみるフェムテック活用の可能性—

誌上セミナー

松下幸之助の実践に学ぶ
第6回 人間観をもつこと

企業紹介

株式会社 オーディオテクニカフクイ

北陸歴史探訪

第19回 ^{はんにやの}越中般若野の合戦と^{ながおよしかげ}長尾能景の討死

【富山ガラス】「小鉢、ぐい呑み、グラス」
やわらかく揺らぐ線と淡い色彩が溶け合い、
静けさと気品を湛える。



繊細なきらめきで 日常に彩りを添える

とやま 富山ガラス × さとう のぞみ 佐藤 望美 [富山県]

今年4月、富山県内に自身の工房を設立した宮城県出身の佐藤望美さん。ガラスに魅せられたきっかけは、中学生の頃、洋画家である母と訪れたイタリアで美しいガラス作品に出会ったことでした。大学でバーナーを使った技法を学んだ後、設備が整った「富山ガラス造形研究所」へ進学し、卒業後は栃木の工房で3年間の修業を積みます。しかし、プロの作家同士が刺激し合い、発表の場も豊富な富山の環境に魅力を感じて移住を決意。「富山ガラス工房」で5年間勤務した後、独立しました。「華やかな作品で日常に彩りを添えられたら」と語る佐藤さん。自身の作品を「美しい」と評してくれる人の声を励みに、さらなる創作に励んでいます。繊細で宝石のようにきらめく作品は高く評価され、現在は県外の百貨店や雑貨店から展示や買い取りの依頼が相次ぐなど、富山から全国へと活躍の場を広げています。



●花器

「偶然性が面白さを生む」という理念のもと制作した作品は、豊かな趣を宿している。



表紙の作品は、編み物(ニット)のような温もりを宿す質感と、万華鏡(カレイドスコープ)のように多彩に変化する表情を併せ持つ「knit-kaleidoscope」シリーズ。



●ぐい呑み

上から覗くと、光を受けて、淡い色彩が浮かび上がる。



高温で溶かしたガラスを息で膨らませて成形する「吹きガラス」という技法により制作している。



Mail: nozomi0907993@gmail.com

さとう のぞみ 佐藤 望美

1993年 宮城県生まれ
2016年 東北生活文化大学 生活美術学科 卒業
2018年 富山ガラス造形研究所 造形科 卒業
ガラススタジオボンテ(栃木)勤務 (～2020年)
2021年 富山ガラス工房所属 (～2026年)
2022年 第4回北近江サケガラス公募展 入選
2023年 工芸都市高岡2023クラフトコンペティション 入選
2026年 富山県に個人工房設立

Instagramは
こちらから

